

(様式1)

令和4年度指定管理者による公の施設の管理状況評価表

1 施設名 (所管課)
砺波青少年自然の家 生涯学習・文化財室

2 施設所在地
砺波市徳万字赤坂17-5

3 施設設置年度
昭和55 年度

4 設置目的
自然環境の中で集団生活を通じて、心身ともに健全な青少年の育成を図る。

5 施設概要
施設面積：55,830.17㎡
主な施設
・本館：鉄筋コンクリート造り3F 3,740.84㎡ 宿泊定員223名
・体育館：鉄筋コンクリート造り 1,525.29㎡
・便所・炊事場：32.40㎡
・車庫：25.75㎡
・物置：13.24㎡

6 指定管理者
株式会社日本ビルサービス

7 指定期間
5 年
平成31年4月1日 ~ 令和6年3月31日

8 利用者数及び利用（使用）料金収入の状況

(1) 利用者数（人）

H30	R1	R2	R3	R4
25,258	21,021	7,635	10,949	14,823

(2) 利用（使用）料金収入（千円）

H30	R1	R2	R3	R4
16,824	13,195	1,376	2,334	6,535

(3) 利用料金収入見込み額（利用料金制導入施設の場合）

H30	R1	R2	R3	R4
15,428	16,045	16,192	16,192	16,192

9 評価項目

(1) 利用者数・収入の増減に対する評価

・令和4年度の利用者数は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けつつも、宿泊利用者数は令和3年度と比較し、緩やかに回復の兆しが見られた。令和4年度の日帰り利用者数は、令和3年度に比べると少し減少したものの、依然として高い水準であった。

・利用収入について、令和4年度は回復傾向にあったが、利用料金収入見込み額の半分に届かず、コロナ禍において引き続き苦しい運営状況であった。利用のPRや主催事業の実施に取り組んでいるが、県内の新型コロナウイルス感染症の発生状況や、それに対応したステージ次第で利用者数が大きく変動する状況は変わらず、特に収入面での厳しさが続いた。

(2) サービス向上に向けた取組み

・令和3年度にリニューアルしたホームページが好評であり、令和4年度も閲覧者にとって有益な情報をタイムリーに掲載してきた。合わせてLINEやインスタグラムを使った情報発信にも力を入れ、施設や行事について広く周知するよう努めた。

・令和4年度に体育館の照明をLED化し、照明のON・OFFの切り替えがスムーズになったことで、スポーツ団体をはじめ体育館利用団体の利便性が向上した。

(3) 利用促進（収入増）に向けた取組み

・利用者数の増加には平日の利用促進が欠かせない。多くの学校で中断されている宿泊学習の再開に向けて、令和4年度に県西部の富山県小学校長会・富山県中学校長会で施設の安全対策等をPRした。

・(2)に記載のとおり、主催・自主事業の情報を、より多くの方に知り、参加してもらえるように、SNSでのタイムリーな情報発信に努めた。

(4) 利用者のニーズ把握や苦情への対応

①アンケート結果

実施方法	利用時にアンケートを配布（五択形式）
回答者数	204団体
結果	①毎年利用させていただいているので、活動内容がもう少し多彩になるとありがたい。 ②食事はお代わり（ご飯だけでも）があるとうれしい。
結果を踏まえた改善事項	①⇒令和5年度開始の新しい活動（野外活動：フィールドビンゴ、館内活動：ウッドプレート）の企画を進めるとともに、メインの活動のリニューアルも進めた。 ②⇒お代わりを準備するのは難しいため、要望の可能性のある団体（スポーツ団体や中学生以上の団体）には予約の段階で1.5倍量の特盛が選択できることを改めて伝えた。

②その他利用者の声を反映させる取組み

・運営委員会（年2回）で各方面の関係者からの意見を聴取。

・レストランで食事に関するアンケートを実施。

③主な苦情と対応

①に記載

(5) 個人情報保護の取組み

・個人情報に関する指針を定め、職員に周知を図っており、適切な個人情報保護に努めている。

(6) 関係団体との連携

- ・富山県青少年教育施設協議会との連携事業として、令和4年11月、12月の2回、ショッピングモール等でクラフト体験会を実施した。
- ・砺波市B&G海洋センターと連携し、令和4年7月にマリーナフェスティバルにブース出店した。
- ・令和4年度も砺波市及び般若地区自治振興会と連携し、当施設を般若地区の緊急避難場所として受入れ体制を整えている。

(7) 施設・設備の維持管理

- ・令和4年度に体育館照明のLED化を行った。
- ・枯れ木や倒木等の恐れのある樹木の伐採、給湯ボイラー配管漏水修理等を実施した。
- ・施設、設備の老朽化が進行しており、特に給排水の配管やポンプなどの水回りについては漏水と修理を繰り返している状況である。冷温水発生器、給湯ボイラーやろ過機を含めた浴室の配管、躯体の痛みなど、中長期的な計画をもとに、優先順位を明確にしたうえで修繕や更新の検討が必要である。
- ・館内の清掃は、利用者から非常に良い評価を受けており、建物の古さを感じず気持ちよく利用していただけるよう引き続き努めていきたい。

(8) 危機管理・安全管理などの取組み

- ・危機管理マニュアルや非常時の緊急連絡網を作成し、具体的なケース研修会を行ったり、訓練の実施をしたりしている。
- ・定期巡回点検に加え、活動前の活動場所・設備の保守・点検を必ず実施している。また、利用者からも意見をいただくようにしている。
- ・利用団体に対しては、火事や地震などの緊急時の避難について、オリエンテーションを行い必ず説明している。
- ・令和4年度も施設利用中の新型コロナウイルス発生時の対応マニュアルを基にした職員研修を行った。
- ・令和3年度に、ホームページの改竄など万が一の場合を想定したマニュアルを作成し、迅速かつ適切に対応できるように職員で共通理解を図っている。

10 所管課の管理運営確認状況

- ①定期報告の受理
- ②維持管理・運営状況等の担当職員現地確認
- ③個人情報に関するトラブルの有無
- ④危機管理・安全管理上のトラブルの有無

有/無	回数(有の場合)
有	12
有	8
無	—
有	1

【トラブルの具体的内容と対応】

- ・令和4年10月に実施した小学校低学年を対象とした主催事業において、児童が遊具から落下する事故が発生した。保護者に連絡の上、病院で検査を受け、軽い打撲と診断を受けた。当該児童保護者・他の参加児童保護者全員に報告・確認の上、事業は継続となった。

11 今後の課題等 (収入確保、経費削減、サービス維持向上等の観点から今後の課題を記載)

- ・令和5年度は、今まで以上に光熱費が増加するため、経費削減の推進も必要であるが、光熱水費の削減は以前から進めており、いっそうの削減は難しくなっている。
- ・令和5年度は新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類に引き下げられたことにより、行事等の再開など利用へ弾みがつくと思われる。引き続き利用促進PRを進めるとともに、平日の利用者の獲得に向けては、新規活動プログラムの充実を積極的に周知し、活動を控えていた学校・各種団体には行事での利用再開がスムーズに行われるよう、分かりやすく丁寧な説明・対応に努める必要がある。